

ジオテキスタイル補強土と私

東京理科大学大学院 野尻峰広

昔から、野球少年でプロ野球選手になるはずだった私が、今ジオテキスタイルの研究を行っていることが不思議であり、大変面白いことであります。そもそも私が土木工学をふれるきっかけとなったのは、私がまだ中学一年生の時に起こった阪神淡路大震災です。その日は、風邪を引いてしまい、学校を休んで朝からテレビを見ていました。時間が経つにつれて、テレビやラジオから流れる情報がどんどん大きくなって、本当に大変なことが起こってしまったとすごく怖い思いをしたのをよく覚えています。今思えば、漠然とですが、この頃から、多くの人間の命を救える人間になりたいと大きな夢を描きながら、バットを振っている自分がいたと思います。

時は経ち、東京理科大学に入学し、プロ野球選手になることを諦め、土木工学を学んでいく中で、野球に変わる興味を持った事柄が、「土」でした。土質実験を授業で習っていく中で、実験は実に単純なことをやっているなと思いました。昔から変わらない試験方法で、土の物性を調べていくことなかで、まだまだ多くの未知な部分が土には隠されているという点に興味を惹かれていきました。

希望通り、土質研究室配属になり、龍岡先生のご指導の下、私が最初に取り組んだ研究が擁壁の問題でした。そして、その対策工として提案されたのが、ジオテキスタイル補強土を用いた工法でした。もともと授業でジオテキスタイル補強土は高い耐震性を持つことを阪神淡路大震災の例で習っていたので、中学生の時のあの地震を耐えた構造物の要因を研究として扱えることは大変に興味があり、熱心に研究に取り組んでいきました。そして、ジオテキスタイル補強土を用いることで、評価できる内容と対策がうまくいき、論文として発表できたことは、とても誇りに思いました。と同時に、指導してくださった先生方の見識の深さに感動を覚えました。そしてこの時から、土木屋さんとして飯を食うべきだと心に決めた自分がいました。

ジオテキスタイル補強土の研究をするにつれて、自分の研究がやっていることに対して問題点を考え、対策をとり、研究をすすめていくという研究姿勢、そして実際、実験結果となって評価できる内容になったときの喜び、それに向けての高いモチベーションと努力、まだまだたくさんあるとは思いますが、とても多くのものを吸収している自分がいると思います。野球と同じように常に挑戦し、努力すること、最後まで諦めない精神で、研究をやってきて、昔の出来損ないの学生から自分なりに、ちょっとは成長できたかなと思っています。今でも大層、出来損ないなのは否めないですが。

僕の人生の心がけの一つとして、「目標となる人間に出会う」ことがあります。今研究を通して出会えた先生方、先輩方は多くの点で目標とするものをもっています。研究に対する姿勢だけでなく、物事の考え方、情熱どれも尊敬に値するものです。常にアンテナを高くし、フレキシブルに行動していき、この先も多くの出会いの中でたくさんの物事を吸収し、自分の人生を熱いものにしていきたいと思っています。そして自分自身も目標となる人物になれるよう、常にベストを尽くして、日々精進していきたいです。